

トイレの森



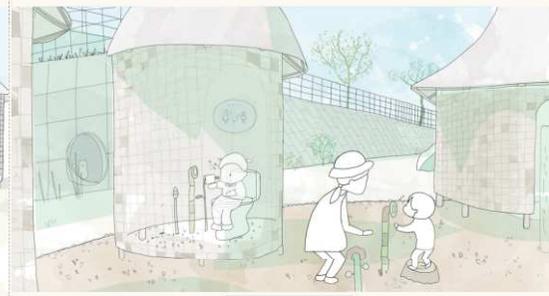
06 4つのエリア



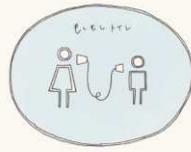
まねっこトイレ



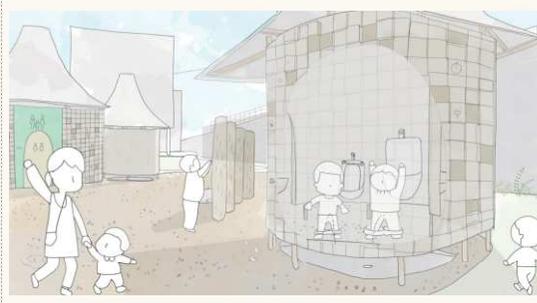
親と子どもが向かい合って一緒にトイレをするエリア。怖い印象を持っている子は一緒にいることで、安心してトイレができることや、子どもは親の姿をまねてトイレの仕方を学ぶことができる。普段トイレというものは他人から見られないため、親も少し恥ずかしい、新鮮で楽しいエリア



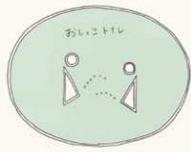
もしもしトイレ



伝声管で外の友達や親とお話できるエリア。公園の遊具にもある伝声管を使い、トイレと遊びを一体化した。子どもの好奇心を湧かせ、ここでは一人で初めてチャレンジするきっかけにもなる場所。



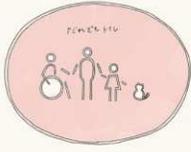
おしっこトイレ



男の子が遊びの一部のように排泄という行為が楽しめるエリア。なるべく縛りがない自由な状態で排泄できるように流し場のような広いスペースとなっており、友達や親と入りトイレというものを楽しくする場所。



みんなのトイレ



さまざまな状況に対応できる広いスペースのあるエリア。車いすの子供がいても不自由なく通れる段差のないスペース。さらに床からキノコのテーブルが生えており、どんごんこになった子などが着替えられるちょっとしたスペースもある。

01 現状

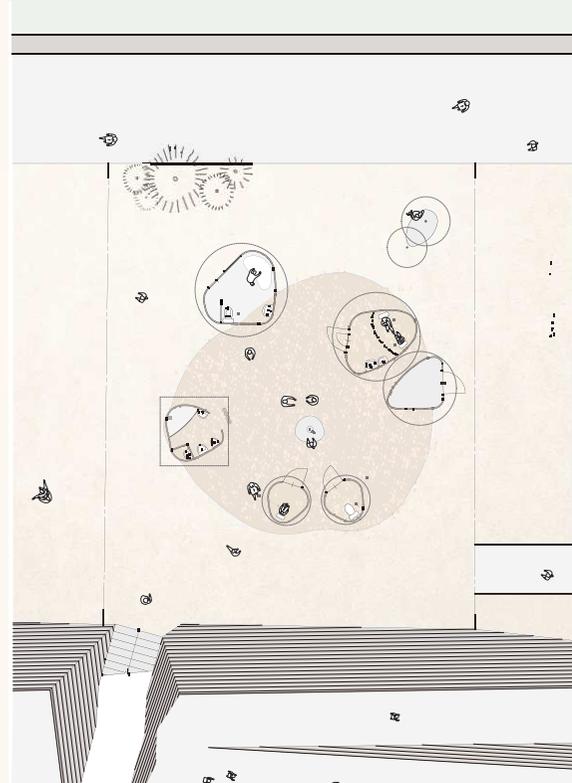
子どもにとってトイレは遊びの場として捉え、また特に小さい子にとっては「ご飯を食べること」「着替えをすること」と連って、「排泄すること」は普段の生活で目にするものが少なく、怖く感じることもある。そこで、単に用を足すだけのトイレではなく、ここのトイレだったら楽しくトイレできる、トイレに行くこと自体に好奇心や探求心が湧く、そしてこどもの姿を見た大人にとっても新たな発見や会話の生まれる、そんなトイレを実現する必要があるのではないかと。

02 計画

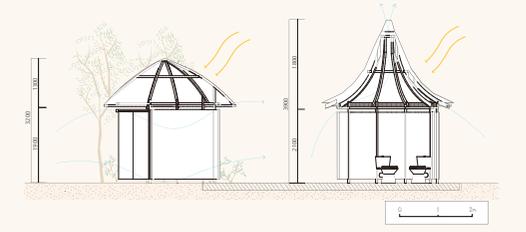
トイレエリアを1つの遊びの場として捉え、子ども達がまるで遊具で遊ぶような感覚でトイレに行くことのできるトイレを提案する。排泄することが楽しくワクワクにつながるよう「まねっこトイレ」「もしもしトイレ」「おしっこトイレ」「みんなのトイレ」の4つのエリアをつくり、こどもの成長段階に合わせた遊び、学べるトイレを計画した。また、巨大な木をイメージした遊具や、まわりの木々のようにトイレも木をモチーフに計画し、小さなボリュームに分散し、ゆるやかな円を描くような配置することで、森の遊び場のようなトイレエリアを計画した。こどものワクワクはもちろん、大人にとっても新しく、発見があり、ここならではの体験となる。



03 構造



07 断面図



建物をつくように地面にウッドチップを計画。ウッドチップはトイレの嫌な匂いを消す消臭の役割を持ち、代わりに木の香りを感知させ、清潔感のある空間へと変える。また、子どもたちは柔らかい踏み心地の地面を走り回り、この場所を遊びの空間へと変える。定期的に補充するだけで管理できるのでライフサイクルコストへの対応も可能となる。

08 立面図



真っ白なフレームの下で自分の好きな場所を探し、アーチのドアから自分の好きなトイレを探す、広場とつながる今までにないトイレ。



1. トイレと広場を一体化して敷地全体を使う



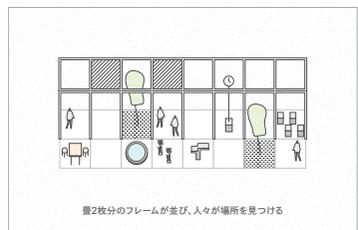
2. 畳と同じサイズのフレームから場所を探す



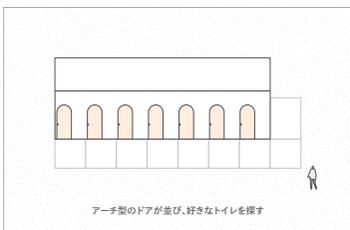
3. アーチ型のドアから自分のトイレを探す



4. これからの時代のビクトグラムを考える



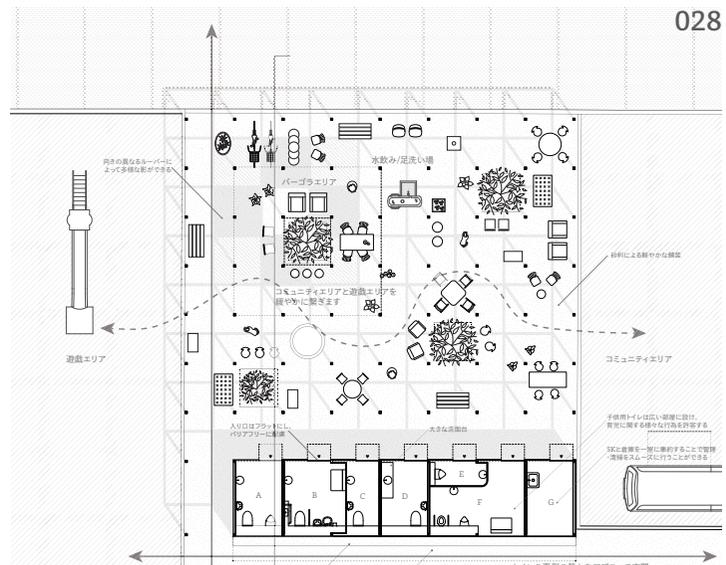
象徴的なトイレを単体でつくるのではなく、目の前の広場と一体化したトイレを目指します。そのために敷地いっぱいをフレームで覆います。その後、フレームの中にトイレやパーゴラ、庭や水飲み場などを丁寧に配置してゆきます。トイレだけが楽しく魅力的なのではなく、前面の広場も一体的に楽しくなるトイレの提案をします。



フレームを用いることで、大きすぎる広場は小さな領域へと緩やかに分割されます。フレームグリッドは1820×1820という数を2枚を並べた馴染み深い寸法にすることで、楽しさやワクワクする場所を探さきかけとなります。会話をしたり、休憩をしたり、のんびりしたり。この広場に訪れた人々が、各々の楽しみ方や居心地の良い場所を探してゆきます。

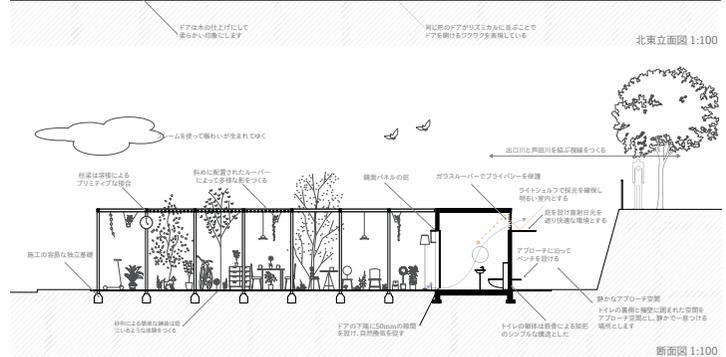
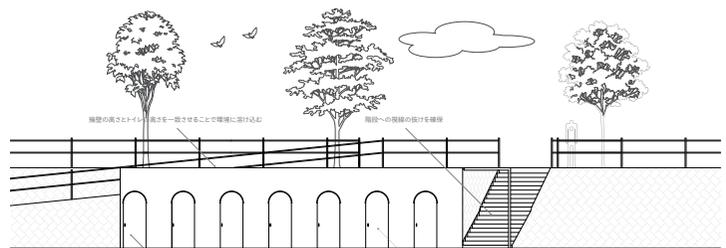


ドアの表面には「性別/年齢/多目的トイレ」などの通常のビクトグラムではなく、内部にある道具の種類を描いた新しいビクトグラムを用意します。子供や大人や障害のある方、男性や女性、そうした多様性をそのままに、自分自身がその時に使いたいトイレを選ぶことができます。自分好みのトイレを自分自身で探して選ぶという楽しさを提案します。これからの時代の要請に答え、トイレ自体も新しい形式で答えます。



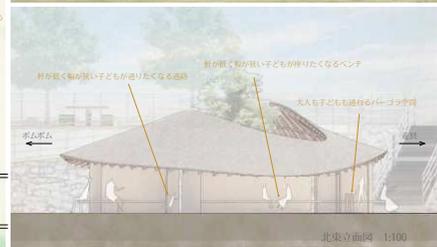
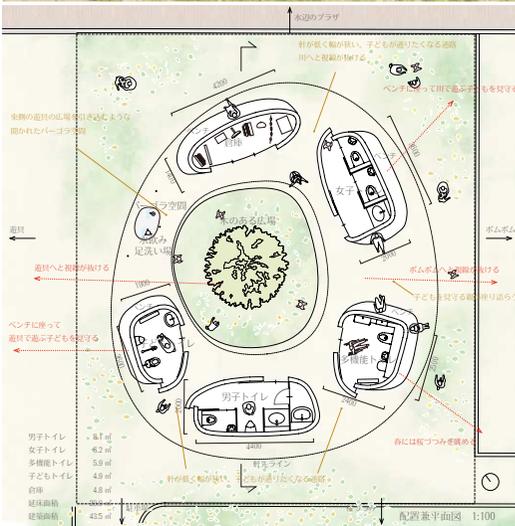
面番(階)	面積(㎡)	仕様
A	4.79	洋式大便器・小便器・パーゴラ・洗面台
B	4.79	洋式大便器・小便器・パーゴラ・洗面台
C	3.73	洋式大便器・パーゴラ・洗面台
D	4.79	洋式大便器・パーゴラ・洗面台
E	2.07	小便器・洗面台
F	7.87	小童大便器・小童小便器・おむつ替えシート・洗面台
G	4.07	2枚1枚のトイレを1枚にまとめる
建築面積		34.78

配置図兼平面図 1:100

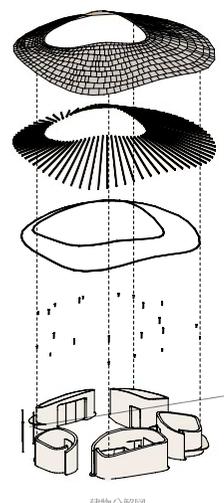


ふわり くぐり

やわらかなたてものに誘われて、くぐり抜けると広がるもうひとつのあそびば。
ポムポムと遊具をつなぐ新たな場として、子どもも大人もおおらかに迎えます。



6. 建物の全体分解図



- ・屋根：杉板葺き 天井：構造用合板
杉板葺きの曲面の屋根は、どこからでも違う形に見える、公園のアイコンになります。
- ・垂木：広島県産スギ
県産材を用いて木のぬくもりを感じられる屋根下空間を演出します。
- ・桁：T型鋼
加工しやすいT型鋼により、自由曲面に沿って重木材を受け、軽快な見た目を実現します。
- ・束：丸鋼
壁と桁の間にわずかなスペースをつくり、屋根の軽快感と通風を確保します。
- ・ポスト柱：丸鋼
自然素材のぬくもりと自由な形状に包み込まれます。汚れが目立ちにくく、消臭効果も期待できます。

1. 好奇心に導かれるトイレ

遊具とポムポムの間にある新たなまりの場と考え、細い通路の先の空間の広がりや柔らかく漏れる光に導かれるように、大人も子どもも自然に引き込むトイレをつくります。

2. 木を囲んだ大きなまりの一枚屋根

円形の一枚屋根が利用者を包み込み、木を囲んだ安心感のある広場空間をつくります。起伏のある屋根はどのからでも違う形に見える、こどもの公園のアイコンになります。

3. 木を囲んだまりの配置

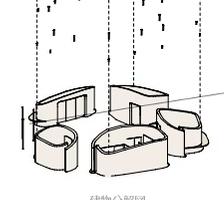
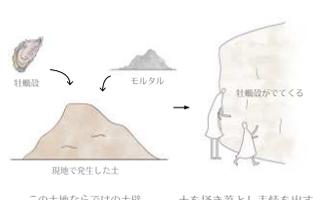
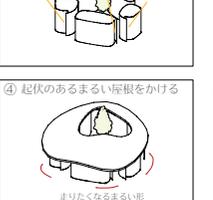
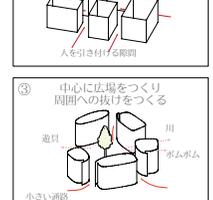
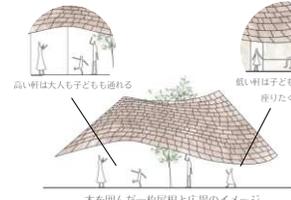
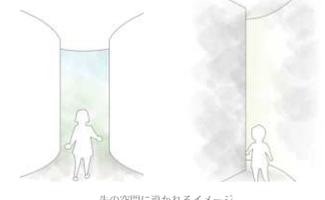
分散配置してポリュームに階層をつくる
角をとりスリットを入れ引き込む空間をつくる
中心に広場をつくり周囲への抜けをつくる
起伏のあるまりの屋根をかける

4. 生えたような建物

このように、土地から隆起した建築に自然素材を用いることで、子どもたちは建物を通して自然に触れることができます。

5. みんなの手で形造るトイレ

現地で発生した土を用いて、ワークショップとして壁の仕上げをみんなで行います。壁の表情はそれぞれの手にって偶発的に生まれ、ここにしかないトイレができます。



先の空間に導かれるイメージ

木を囲んだ一枚屋根と広場のイメージ

小さい通路

走りたくなるまりの形

土地から生えたような自然素材の建物

この土地ならではの土壁

土を掻き落とし表情を出す

建物分解図

